

公立玉名中央病院が担う役割について

平成30年4月 地方独立行政法人くまもと県北病院機構

1 現状と課題

【自施設の現状と課題】

2013年11月に「玉名地域医療体制づくり推進本部」を玉名市役所に設置し、各種関係団体の代表者を交えた協議会や部会等により「人に寄り添う玉名地域医療体制づくり」を念頭に住民アンケートを踏まえて協議を重ねてきた。

地域完結型で地域住民への質の高い医療提供をするには、玉名地域保健医療センターと公立玉名中央病院が経営統合することが最善との結論に達し、2016年8月16日に経営統合の基本合意に至った。

経営統合するために、公立玉名中央病院は2017年10月1日に経営形態を地方公営企業法全部適応から地方独立行政法人へ変更した。

2017年12月7日事業譲渡契約を玉名郡市医師会と締結し、2018年4月に一般社団法人玉名郡市医師会立玉名地域医療センターと経営統合する。

また、総病床数402床の新病院建設事業も2021年4月の開院に向けて進行中であり、完成までの3年間は2病院体制で急性期から慢性期までの地域医療の提供を継続する。

診療実績

延べ外来患者数	平成27年度	平成28年度	平成29年度
初診	16,736人	17,416人	18,252人
再診	79,340人	82,155人	88,504人
合計	96,076人	99,571人	106,756人

延べ入院患者数	平成27年度	平成28年度	平成29年度
一般病棟	78,098人	83,602人	84,772人
回復期リハ病棟	14,230人	14,565人	14,502人
合計	92,328人	98,167人	99,274人

救急受入患者数	平成27年度	平成28年度	平成29年度
救急車	2,072人	2,210人	2,583人
その他	12,261人	12,708人	13,331人
合計	14,333人	14,918人	15,914人

紹介患者数と紹介率



逆紹介患者数と逆紹介率



新病院開院までの 2病院それぞれの機能

公立玉名中央病院 (急性期、回復期)

玉名地域保健医療センター (回復期、慢性期)

2021年

新病院 (高度急性期、急性期、回復期)

5 疾病への対応

がん	がん全般に対して外科手術、薬物療法(抗がん剤等)緩和医療など先進的な治療から終末的治療まで質の高い医療の提供を継続します。
脳卒中	内科的な治療だけでなく、総合的な急性期脳卒中医療に対応できるように施設の整備や人員の確保を図ります。
急性期心筋梗塞	急性心筋梗塞急性期拠点病院を目指し、施設の充実や人員の確保を図ります。また、患者の早期回復を図るため心臓リハビリも充実させます。
糖尿病	生活習慣病の予防を図り、糖尿病とその合併症に対し糖尿病センターとして複数の診療科と連携した専門的治療を提供し、地域の関係機関とのネットワークの中心として有明医療圏のチーム医療の構築を目指します。
精神疾患 認知症	有明医療圏域内の関係施設との連携にて対応します。国の政策などを見据えながら、対応を検討していきます。

5事業への対応（へき地の医療は対象外地域）

救急医療	断らない救急医療体制構築のためER救急センターを設置し、24時間365日対応する救急医療を目指します。また、オンコール体制の強化や地域の医療機関・医師との協力体制の強化に加え、有明広域消防本部との連携による救急ワークステーションの整備も行い救急医療体制の強化を図る。
災害医療	熊本地震を教訓に大規模な災害時にも、住民の安全・安心を守る地域災害拠点病院として万全の施設整備を行い、迅速かつ効果的に救護活動ができるようBCP(事業継続計画)を新たに策定し、地域の医療関係者や住民に対し研修を行います。
周産期医療	地域産科中核病院や地域周産期母子医療センター、総合周産期母子医療センターへの連携にて対応します。
小児医療	院内各科や玉名郡市医師会との協力の下、夜間・休日の小児救急診療を行います。

2 今後の方針

【地域において今後担うべき役割】

玉名地域の現状と課題、国の政策を踏まえ、求められる医療提供に努める。

地方独立行政法人くまもと県北病院機構は平成33年の新病院開院までの間は玉名地域保健医療センターと公立玉名中央病院の2病院体制でそれぞれの医療機能の充実を図り地域医療を担う。

402床の新病院を建設し医師の集約化を図り、救急医療、特に緊急を要する脳疾患、心疾患や血管病の緊急手術、夜間・休日の小児医療に対応できるように現在不足している急性期医療の充実を図ります。

《現在》

公立玉名中央病院



急性期 262床
回復期リハ 40床
合計 【302床】

玉名地域保健医療センター



急性期 53床
地域包括ケア 47床
慢性期 50床
合計 【150床】

総病床数 452床

《平成33年4月開院予定》

地方独立行政法人 くまもと県北病院機構



HCU 18床
急性期 294床
回復期リハ 45床
地域包括ケア 45床

→ 50床減

総病床数 402床

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【① 4 機能ごとの病床のあり方 その1】

単位：床

病床機能	2017年(平成29年)	2023年(平成35年)	2025年(平成37年)
高度急性期	0	18	18
急性期	262	294	294
回復期	40	90	90
慢性期	0	0	0
その他	0	0	0
合 計	302	402	402

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

2017年 公立玉名中央病院（302床）

《急性期262床 回復期リハ40床》

玉名地域保健医療センター（150床）

《急性期53床 地域包括ケア47床 慢性期50床》

2023年 新病院（402床）

《高度急性期18床 急性期294床 回復期90床》

※玉名地域保健医療センターの療養病床(50床)については、新病院では廃止することで県の許可を得ている。

療養病床の患者受入については、近隣の療養病床を有する病院関係者との会議の中で可能な限り協力する旨の回答を得ている。

入院制限を伴う患者コントロールについては協力医療機関との事前協議により転院時期や転院先・転院方法など密に連携して対応する。

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【②診療科の見直し】

	現時点 (2018年4月時点)	2025年	理由・方策
維持	新病院開院までは 既存診療科維持	既存診療科の維持	既存診療科の充実 医師確保
新設	病理診断科 (常勤医師1名確保)	脳神経外科・救急科 (熊本大学と交渉中)	住民の要望が高い診 療科の新設・医師確 保
廃止			
変更・統合	2018年4月経営統合	2021年4月新病院開院	地域完結型で質の高い 医療提供を目指す

3 具体的な計画 (2) 数値目標

	現時点(2018 年 3 月時点)	2025年
①病床稼働率	97.7%	新病院 病床稼働率 92% 平均在院日数 14日
②紹介率	63.3%	新病院 70%
③逆紹介率	93.7%	新病院 100%

3 具体的な計画

(3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

【取組みと課題】

① 病床稼働率

地域医療支援病院としての役割を果たし、病院・開業医・老健施設等との連携強化に努める。

救急科を充実させ、可能な限りの重症患者受入により入院患者増を図ると共に退院調整支援等により平均在院日数短縮に努める。

② 紹介率

地域医療支援病院としての役割を果たし、病院・開業医・老健施設等との連携強化に努め地域完結を目指す。

③ 逆紹介率

地元の医療機関や老健施設等、紹介元の医療機関との連携強化に努める。

4 その他特記事項

【総合診療実践学寄附講座「玉名教育拠点」】

我が国の地方は慢性的な勤務医不足となっています。若手医師の専医志向が強く、幅広い診療が難しいことも理由の一つです。

そこで、国は、広い診療分野を担当できる総合診療専門医を育成することにしました。

熊本県と熊大は熊本県地域医療支援機構を設立し、総合診療専門医を育てることにし、2015年4月大学外の教育拠点として当院を選び、「地域医療・総合診療実践学寄附講座 玉名教育拠点」を設置しました。

これは、2014年11月に策定された「熊本大学医学部附属病院サテライト分室構想」を実現化したものであり、全国的にも少なく九州内では唯一の事業です。事業内容は、熊大病院から当院に指導医を配置し、総合診療専門医を志す医師を、診察を通じて教育・指導を行い総合診療専門医を育成し、その医師たちが、将来は県内の医師不足地域の医療を担ってくれることを期待するというものです。

現在の玉名中央病院では設備が大幅に不足しており、新病院では設備の充実を図ると共に医師教育体制の一層のレベルアップを目指します。

指導医



総合診療専門医を志す医師

地域医療実践教育の場

熊本県地域医療実践教育基幹研修センター（仮）

県内の医師不足の地域の病院へ

熊本県地域医療支援機構

